

『シボラ』の活動

ゆるいつながりから 継続した活動を!!

プロローグ

北海道恵庭市は、札幌市と新千歳空港のほぼ中間に位置し、恵まれた交通アクセスと穏やかな気候風土を持つまちです。早くから住宅地整備を進めるとともに、公共下水道や大学・専門学校、工業団地などの都市基盤の整備が進められ着実に人口が増えています。

また近年は、市民の熱意と努力によって、花によるまちづくりを進めていることで知られるようになりました。今では道内外からガーデニングを見学に訪れる人がいるほどです。

さらには、赤ちゃんに絵本を配るブックスタートや市内全小中学校への図書館司書の

配置、学校での朝読書、行政と市民や団体が協働して行う読み聞かせなどの活動から、読書のまちとしても知られています。

そんな恵庭市の職員有志で立ち上げたボランティアサークル『シボラ』。名前の由来は、市役所の「し」、ボランティアの「ボラ」で『シボラ』。それをカタカナで表記して『シボラ』と名づけました。

その『シボラ』のゆるいつながりから継続したボランティア活動を行っている様子をご紹介します。

『シボラ』立ち上げのきっかけ

『シボラ』は、平成14年6月28日に産声を上げました。

公務以外において職員相互の連帯感を高



吉成 祐輔

恵庭市役所ボランティアサークル
「シボラ」会員/
北海道恵庭市総務部総務課

【よしなり ゆうすけ】1985年、北海道夕張市生まれ。2008年、北海道恵庭市奉職。2008年から「シボラ」の会員として活動。

めながら、自らの意思で地域のためにボランティア活動を行うことを目的として設立しました。

市職員が地域の中で主体的、自発的、先駆的に何かできるものを試行錯誤しながら一つひとつ実践して、よりよいまちを創りあげていきたいというのが設立時の想いでした。

また、地域のさまざまなボランティアグループや団体とのジャンルを超えた連携を深め新しい活動に発展させていくことも目的の一つとしており、ボランティアの新たな可能性を模索したいという想いもあったと聞いています。

そういった理念に基づいた活動を行っています。細かい会則があるわけでもなく、また、参加するメンバーのしつかりとした名簿



シーニックナイト (2月開催)
実行委員会に参加し、シボラのメンバー
で駅の東口を担当し、アイスクャンドル
やスノーキャンドルを飾りました



があるわけでもないという、ゆるい、つながりの中で活動を行っています。

立ち上げ当初の活動

『シボラ』結成後の初めての活動は、昼休み時間を利用した庁舎周辺の清掃でした。当初の活動から、できることに、できることをする、という基本姿勢が現れています。

同年には、恵庭市のみならず、近隣市の水源でもある市内の盤尻地区^{ばんじり}という山間地で清掃活動を行う「えにわ湖慈しみフェスタ」へも参加しています。この活動では、植樹やごみ拾い等の清掃活動をさまざまな団体と一緒に、現在まで毎年参加しています。

そして、翌年の冬からは独居老人宅の除雪ボランティアを行っています。この活動は、各町内会単位で結成された自主防災組織の組織立ち上げの契機にもなりました。自主防災組織は、現在も「ひとり暮らしの高齢者世帯の除雪作業」を行っていますが、その活動が定着するまでの間の支援として『シボラ』メンバーが現場をサポートする形で行っていました。現在は参加していませんが、あくまでも地域が支えあうきっかけづくりとなるよう支援に徹するという想いから実施していたということです。

同時期には、市内の島松駅前ロータリーで市民から集めた鯉のぼりを展示するイベントに企画したり、不要となつたらうそくを集

めて夏の夜にキャンドルナイトを行っていたのが、今では、冬のスノーキャンドルへと時期を変えて全市レベルの大きなイベント「シーニックナイト」に成長したりしています。ここにも市民と一緒にまちを盛り上げたいという、今にも通じる想いがありました。

設立当初は、約20名という人数で活動する中、何かに縛られる活動ではなく、あくまで自主性を尊重し、できることに、できることをする、という姿勢で活動を継続してきました。

私が『シボラ』に参加することになった経緯

ここで私自身のお話をさせていただきます。『シボラ』の歴史は約12年に及んでいますが、私が恵庭市役所に奉職したのは今から7年前で、すでに『シボラ』の活動が始まっていました。

私が『シボラ』の活動に参加することになったきっかけは、ある先輩職員からのお誘いのメールでした。この先輩職員というのが現在の代表になるわけですが…(笑)。

それはさておき、このお誘いの方法は現在でも同じで、新規採用職員の全員に活動のメールを送り、賛同してくれる人に参加してもらおうという方法が基本です。その他、行政に係る場合は、担当課と共同で職員に案内したり、時には、職員福利厚生会を経て案内したりとさまざまなお誘いの方法が

クリーンウォーキング (5月実施)

市で策定している「きれいなまちづくり条例」に基づいた、ごみ拾い活動です。シボラが、市内の様々な団体に呼びかけて、当日や前後を合わせて、約6,000人の参加をいただいています



あります。

したがって、ずっと参加してくれる人もいれば、参加できる時に何回か参加する人、メールのお誘いを受け取るだけのひととさまざまです。毎年新規採用職員にはお誘いのメールをするため名簿上のメンバーは増えていくことに加え、参加する人も活動内容によって毎回変わるため、その時々によって顔ぶれが変わり新鮮な気持ちで参加できます。

こういったゆるいつながりの中で、職場内のさまざま職員と活動する中での横のつながりや他のボランティア団体とのつながりができることが『シボラ』の活動の魅力なのかなと思います。

話が逸れましたが、こんなきっかけで参加した私でしたが、ボランティアやまちのイベントの支援などを通して、いろいろなメンバーやまちの活動者と知り合うことができることもおもしろく、いつの間にか長く続けられていることに自分自身驚いています(笑)。

「ごみゼロウォーキング」の活動

設立当初からさまざまな活動を行ってきた『シボラ』ですが、近年もいろいろな取り組みを行っています。

前述した「えにわ湖慈しみフェスタ」には『シボラ』の設立時から毎年参加していますが、これと同様に環境美化に対する取り組みとして「クリーンウォーキング」という活動を設立の翌年から継続して行っています。

平成15年に、市が空き缶やたばこの吸い殻などのポイ捨ての無い美しい緑と花のまちを目指して「きれいなまちづくり条例」を制定しました。この条例の中で5月30日を「ごみゼロの日」と定めて、全市的な清掃活動を行うとしました。

そこで『シボラ』が市民に呼びかけて、市内を4つのエリアに分け、市民や行政、企業、各種団体などみんなでまちを歩き、まちを知り、まちをきれいにする「クリーンウォーキング」をスタートさせました。この活動が今や全市的な活動になりました。

第1回目の参加者は約50名でしたが、2

回目には150名、3回目には350名と参加者を大きく増やし、昨年(平成26年)は60以上の団体、5000名を超える多くの参加者のもと実施できました。

この活動は、単なる清掃活動だけではなく、まちづくりの場、そして学校、企業、団体、町内会、個人などの異業種、多世代間の交流の場となっています。

こうした人と人とのつながりにより活動の輪が広がり、地域づくりの仲間意識が着実に大きいものになっていると感じます。

『シボラ』の活動の基本は、メンバーである市職員だけで行うのではなく、市民や企業、各種団体と協働で行うことです。そういった活動を行うことで地域を知り、市民と交流することで市職員の今後のまちづくりへの意識の变革にもつながるものと考えています。

近年の『シボラ』の活動

『シボラ』が主催する行事は先に述べた「クリーンウォーキング」ですが、その他にもさまざまな団体のお手伝いとして、いろいろなイベントに参加しています。

まずは、一般社団法人恵庭青年会議所が主催する「わくわくお仕事体験」や「ゆきんこまつり」への参加です。

「わくわくお仕事体験」は地元の企業による子どもたちの職業体験イベントで、バーテンドー体験、ネイリスト体験、建設重機の

スノーフェスタ (3月開催)

スキー連盟の依頼を受け、市民スキー大会に合わせて行われる子供向けのイベントを手伝います。チューブスライダーを作成し、たくさん子どもたちに楽しんでもらいます



わくわくお仕事体験 (8月開催)

夏祭りに合わせて地元の青年会議所が行う「わくわくお仕事体験」というイベントのサポートです

試乗体験などから、警察官や消防士の体験などの行政を巻き込んだもので20を超え、職業体験のブースが設置されます。『シボラ』はそれぞれのブースを支援するボランティアとして参加しています。入場者約2000名の大きなイベントで、さまざまな企業や各種団体と協働で行っています。次にご紹介する「ゆきんこまつり」は、子どもたちに冬でも屋外で思いっきり遊んでもらいたいという趣旨で開催されるイベントです。冬の運動会をイメージして、雪の中で障害物競走や綱引きなどを楽しんでもらいます。これもさまざまな団体の協働で運営され、『シボラ』もその一員として参加し

ています。さらには、先ほどご紹介した冬の一夜をスノーキャンドルやアイスキャンドルにろうそくを灯して過ごす「シーニックナイト(キャンドルナイト)」というイベントにも、JR恵庭駅前の飾りつけ担当として参加しています。これも実行委員会形式により運営されています。スノーフェスタという市内のスキー大会と同時開催される冬のお祭りでも、雪の滑り台の設置や運営などをお手伝いして子どもたちを楽しませています。このようにさまざまな団体が運営するまちを盛り上げるイベントに、その実行委員会

の一員などとして参加する形で携わらせていただいています。ここでも、いろいろな人と知り合い交流する中で、一つひとつのイベントでまちを盛り上げたいという想いがあふれています。

さいごに

このように『シボラ』は、その時々にあつた内容の事業やイベントにボランティアとして参加しています。

その活動の根幹には、公務以外において自らの意思で職員相互の連帯感を高めながら、地域のためにボランティア活動を行うという想いがあります。

しかし、私自身このような理念を持って設立されたということは、今回この原稿のお話が来てから過去の資料を見せていただいた初めて知りました。

それでもこれまで活動に参加している中で、なんとなくその想いは理解できていたように思います。

つまり、理念を高らかに謳ったり会則をしつかり作ったりという会の形を整えることも大事ですが、『シボラ』のように、ゆるい集まりの中でその活動の姿勢から後進にその想いを伝えることはできるのだと思います。

これからもみなさんには、私たちがこのゆるいつながりの中から永く『シボラ』の活動を続けていけるように見守っていただければと思います。